

進化経済学会ニューズレター

No.57 January 2025



(静岡天竜の山々 撮影：横田宏樹)

進化経済学会事務局
〒564-8680
大阪府吹田市山手町3丁目3-35
関西大学政策創造学部
徳丸宜穂研究室

- ✓ 2024 年度オータムコンファレンスを終えて
- ✓ 第 29 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録
- ✓ 会勢報告
- ✓ 第 29 回進化経済学会オータムコンファレンス会計報告
- ✓ 2023 年度収支計算書
- ✓ 北海道・東北部会報告
- ✓ オンライン LPF (ライブプレゼンフェス) 2024
- ✓ 編集後記

2024 年度オータムコンファレンスは、9 月 21 日（土）に関西大学千里山キャンパスにて完全対面で開催されました。

また、今年度の進化経済学会関西大会関連の行事は関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構との共催の形式をとることになりました。34 名の参加がありました。この中には非学会員の参加も含まれており、共催の意義があったのではないかと、思います。

今回のオータムコンファレンスのテーマは、2025 年 3 月に開催される本大会のテーマ「生成 AI と経済社会の共進化」をそのままに、各分野で研究をリードされておられる 4 名の先生方にご講演をいただき、質疑応答を行いました。

最初に登壇された市川学さん（芝浦工業大学システム理工学部）は「社会データサイエンスと社会シミュレーションの最前線」と題して報告されました。報告では、ご自身の研究室(<https://www.ds.se.shibaura-it.ac.jp/>)が手がけておられる様々な研究の簡単な紹介と社会実装の実例や、Digital Twin Japan (D2J) という仮想日本社会シミュレーターとそれをを用いた分析例が紹介されました。研究室運営や 1/1 の社会シミュレーション、その利用法や限界など、わかりやすく説明され、進化経済学会における主要な手法の一つであったエージェントベースシミュレーションがここまで発展を遂げているのか、と感銘を受けました。

第二報告の坂地泰紀さん（北海道大学大学院情報科学研究院・准教授）は「言語モデルを用いた経済ナラティブインデックスの生成」という報告をされました。大規模自然言語モデル(LLM)を利用して情報抽出を行い、経済や社会に関する出来事からどのような結果が得られるのかを「ひとつのストーリー」として取り扱う方法を提案されました。LLM の歴史や生成 AI との関連も解説され、初学者にもわかりやすい報告でした。

第三報告の西野成昭さん（東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻・教授）は「経工連携のすすめ：シミュレーション技術の活用可能性」と題した報告を行いました。近年、経済学と計算機科学の学際分野が一定の成功を収めている事実を踏まえつつ、経済学と工学の連携を提案します。経済学はアナリシス、工学はシンセシスであることを踏まえ、経済学の分析をもとに工学的に仕組みを構築し、できた仕組みを経済学的に評価する、という循環を構築していくことで実質的な学際研究が進むと話されました。進化経済学会でも学会設置当初から学際研究の必要性が叫ばれていましたが、なかなか進んでいません。西野さんの報告は我々学会にとっても大きなヒントとなるのではないかと、感じました。

第四報告の水谷瑛嗣郎さん（関西大学社会学部・准教授）は「法は AI をガバナンスできるのか？」と題して報告されました。法学は社会情勢の変化に非常に敏感です。AI の発展による法整備をどのように行っていくかが EU やアメリカ、日本で異なることが紹介され、中長期的視点から、様々なガバナンス・ツールを組み合わせながら、様々なアクターの役割に応じた適正な責任配分を行い、民主的かつアジャイル(機敏)に課題に対応することが主張されました。

今回のコンファレンスでは、生成 AI の社会的インパクトの大きさを実感するとともに、こういった社会の変革期に進化経済学及び学会が果たす役割とは何か、について考える良い機会となりました。

コンファレンス終了後、懇親会では会長主導の新企画も実施され、これまでになく話の弾んだ懇親会となりました。これも参加くださいました皆様の協力のおかげです。今回のオータムコンファレンス開催に当たってご協力を下さった関係者の皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、第 29 回大会は 3 月 22 日（土）、3 月 23 日（日）の 2 日間にわたって関西大学千里山キャンパスを舞台に開催されます。多くの会員の皆様のご参加を実行委員会一同お待ちしております。

第 29 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録

日時：2024 年 9 月 21 日（土）12:10~12:50

場所：関西大学第 3 学舎 B501A + オンライン

出席者（対面）：吉田雅明（会長），小川一仁（大会実行委員），有賀裕二，磯谷明德，依田高典，宇仁宏幸，江頭進，谷口和久，遠山弘徳，中原隆幸，服部茂幸，西洋（会計），橋本敬（副会長），八木紀一郎，徳丸宜穂（事務局）

出席者（オンライン）：浅田統一郎，荒川章義，植村博恭，黒瀬一弘，巖成男，瀬尾崇，鍋島直樹，西部忠，藤田真哉，宮崎義久，森岡真史，横田宏樹，吉井哲

欠席（委任状あり）：池田毅，井出明，藤田菜々子

欠席（未回答）：

(敬称略)

1. 報告

1. 1 会勢報告

徳丸事務局担当理事より会勢報告が行われた。

1. 2 第 28 回オータムコンファレンス参加状況について

小川理事（大会実行委員会）より，第 29 回オータムコンファレンス参加状況について報告があった。

1. 3 日本経済学会連合報告

2024 年度第 1 回評議会報告についての資料共有により省略。

1. 4 各部会報告

ニュースレター掲載につき省略。

1. 5 各委員会報告

瀬尾理事（活性化委員会）より，オータムコンファレンスでの「掲示板」の試み，ライブプレゼンフェス(12/1 13:00-)の企画について報告があった。また吉田会長・橋本副会長より，オンラインセミナーシリーズの企画について報告があった。

これに関連して西部理事より，若手会員の入会・継続支援のために JAFEE 通貨を使う可能性について提案がなされた。

1. 6 次年度開催校について

徳丸事務局担当理事より次年度開催校が下関市立大学になる旨報告があり、磯谷理事から挨拶があった。

2. 議題

2. 1 入退会について

徳丸事務局担当理事より、メール審議によって承認された新規入会者が提示され、これを確認した。また新規入会希望者について照会し、これを了承した。

2. 2 2023年度会計決算報告について

西会計担当理事より会計決算報告が行われ、2023年度会計決算を了承した。

2. 3 学会賞・奨励賞の選定について

遠山選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞・奨励賞については該当者なしとすることが提案され、これを了承した。

2. 4 フェロー推薦について

荒川理事（フェロー推薦委員会）より、出口弘会員をフェローに推薦する旨が報告され、これを了承した。

3. その他

3. 1 学会活性化に向けた諸施策に関する呼びかけ

ライブプレゼンフェス、オンラインセミナーシリーズ、EIERへの投稿について、吉田会長より補足説明がなされた。

文責：事務局担当理事 徳丸宜穂

進化経済学会会勢状況

2024年4月1日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	285 (休会3含む)
個人終身正会員	22
院生会員	35 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	0
344	

2024年9月21日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	283 (休会3含む)
個人終身正会員	24
院生会員	36 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	0
345	

1 2023 年度収支計算書決算報告

※ 資料は、「進化経済学会 2023 年度 収支計算書」

1-1 収入（会費および大会収入）

① 正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5 年）

2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
3,425,000 円	3,494,000 円	3,467,000 円	2,575,110 円	2,775,000 円

（根拠資料）2019~2022 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2023 年度：2023 年度収支計算書決算報告（決算額）の数字

（注）2023 年度の会費収入は，対 2022 年度比で 8%上昇（199,890 円の増加）。

② 会費収入・会員種別件数

年度	正会員 当年度分	学生会員 当年度分	正会員 過年度分	学生会員 過年度分	終身会員	その他	合計
2022 年度	195 件	13 件	22 件	5 件	3 件	8 件	246 件
2023 年度	210 件	11 件	49 件	6 件	2 件	4 件	278 件

（根拠資料）2022 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2023 年度：2023 年度進化経済学会入金記録(4.1~3.31)

（注）

- ・ その他：前受会費，個人準会員，賛助会員，預り金。

③ 第28回福井県立大学大会収入

- ・ 収入合計は1,109,923円（内訳：地域公共政策学会からオータムコンファレンスへの共催分担金27,380円、福井県立大学から本大会への学会補助費157,043円（残金は返却）、進化経済学会からの補助40万円）。
- ・ 学会補助を除く収入は709,923円。

1-2 福井県立大学・大会（第28回大会）収支（簡略版）：単位は円。

	収入（金額）		支出（金額）		差額
オータム カンファレンス	進化経済学会補助	400,000	支出	54,760	372,620
	地域公共政策学会	27,380			
本大会	福井県立大学 学会補助費	157,043	支出	557,309	125,234
	大会参加費（事前払い）	512,550			
	大会参加費（当日払い）	36,950			
	学生会員返金	-9,000			
	懇親会費返金分（振込手数料込）	-15,000			
合計	1,109,923		612,069	497,854	
（参考）第27回大会	1,043,003		539,234	503,769	

（根拠資料）福井県立大学会計報告2023年度：差額合計（497,854円は2024年4月30日に学会口座に返金済）

- ・ 収支内容については2023年度収支報告書決算報告で監査済

1-3 支出（項目と繰越金）

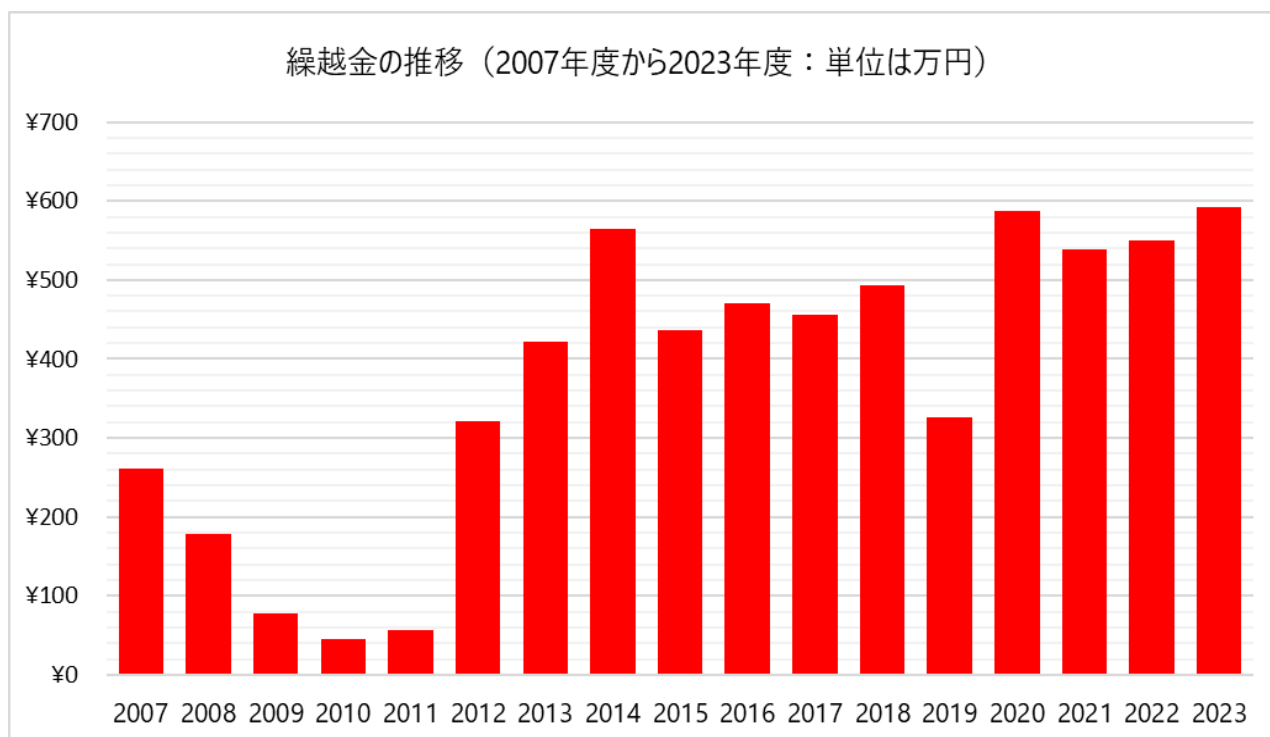
支出	参考：予算（2024年度）	決算額（2023年度）	決算額（2022年度）	決算額（2021年度）
大会費	1,100,000	612,069	539,234	191,833
オータム・コンファレンス	400,000	54,760	36,000	57,585
本大会	700,000	557,309	503,234	134,248
英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
通信費	15,000	5,568	5,568	5,568
交通費	0	0	0	0
事務用品費	60,000	8,283	20,681	38,564
謝金	15,000	0	0	22,000
送金手数料	15,000	5,910	7,065	10,735
会議費	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	0
事務委託費	300,000	150,700	253,277	608,956
国際交流費	0	0	0	0
部会補助費	150,000	40,000	34,540	0
経済学会連合会費	35,000	35,000	35,000	35,000
学会賞	100,000	50,000	50,000	100,000
振替票送付代	0	0	550	14,520
予備費	80,000	1,802	23,520	804,600
当期支出合計(a)	4,070,000	3,109,332	3,169,435	4,031,776
繰越金(b)	4,654,246	5,920,246	5,505,227	5,394,446
総計(c=a+b)	8,724,246	9,029,578	8,674,662	9,426,222

（根拠資料）2021～2023 年度：当該年度オータムコンファレンス会計報告および2023 年度理事会 会計報告資料、

（注）

- ・ 2024 年度の予算（参考）は2023 年度本大会理事会・総会にて承認済。
- ・ 22 年度には事務委託費を大幅に削減、23 年度は通信、謝金、送金手数料、予備費を20%削減する形で予算を組んだ。
- ・ 2024 年度には、さらに直近2年連続で支出実績が予算の半分に満たなかった項目のうち通信費、謝金、送金手数料は16,000円から15,000円へ、事務用品費は64,000円から60,000円に減額。
- ・ 例年報告している通り、支出の大半は大会費、英文誌編集刊行、事務委託費（支出完遂でおよそ365万円）は全支出の89.6%を占める。22年度の会費収入約275万円を基準とすれば、大会収入などで90万円以上なければ、赤字運営となる。
- ・ また英文編集刊行費用は年度始め（5月）に巨額で執行されるため、速やかな会費納入が必要である。

2 繰越金の推移（2007年度から）



(根拠資料) 昨年度オータムコンファレンス会計報告，進化経済学会 2023 年度収支報告書（監査）。

(注)

- ・ 2023 年度は会費収入が約 20 万円増えたこと，大会収支で黒字が 10 万円強あったこと，さらに事務委託費を 15 万円程度に削減したこと，また例年同様に大会補助金はオータムカンファレンスの 40 万円のみを抑えられたことなどから，繰越金は昨年度よりも 40 万円程度増加し，5,920,246 円になった。

3 モノグラフ・シリーズの印税収入

- ・ 2023年度の『ハンドブック』利用料収入は1038円、『シュプリングァー・モノグラフ S』の印税収入は38,387円でした。『シュプリングァー・モノグラフ S』の内訳は次の通りです。

Royalties Statement Summary Statement Period 01 January, 2022 - 31

December, 2022 Statement ID: 2022-R-00.016.365から作成

Title	Electronic	Print	E-Book	ADJUSTMENTS	Royalties Due
Emerging Risks in a World of Heterogeneity	0	2.28			2.28
Social Preference, Institution, and Distribution	1.75	3.69	7.56		13.00
A New Construction of Ricardian Theory of International Values	12.51	-2.46	13.98		24.03
J.M. Keynes Versus F.H. Knight	7.00	4.03	15.35	-7.14	19.24
Contemporary Meanings of John R. Commons's Institutional Economics		2.38	3.31		5.69
The Evolving Relationship between Economy and Environment	14.7	4.26	26.39		45.35
Economic Foundations for Social Complexity Science	3.18	2.38	7.74		13.30
Contemporary Capitalism and Civil Society	0.91	6.42	10.21		17.54
The new Japanese Firm as a Hybrid Organization	1.3	0.94			2.24
Evolutionary Games with Sociophysics	20.38	14.64			35.02
Spectral Theory of Value and Actual Economies	0.1	18.58	26.01		44.69
Complexity, Heterogeneity, and the Methods of Statistical Physics in Economics	1.57	9.34	15.18		26.09
Interacting Complexities of Herds and Social Organizations	2.88	2.07			4.95
Sociophysics Approach to Epidemics	1.85	6.73	11.94		20.52
Statistical Properties in Firms' Large-scale Data	0.1	1.98	2.9		4.99
Catastrophes and Unexpected Behavior Patterns in Complex Artificial Populations	0.1	6.5	9.19		15.80
Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas	8.76	49.25	80.75		138.76
Total	77.09	133.01	230.51	-7.14	433.49
Withholding Tax Calculated on 433.49					43.35
Payment Due SGD					390.14
Amount to be Transferred to your bank (rate 98.39291) JPY					JPY 38,387

以上

進化経済学会
2023年度 収支計算書
(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	2,170,000	2,775,000	605,000	大会費	1,100,000	612,069	-487,931
正会員当該年度	1,950,000	2,100,000	150,000	オートム・コンファレンス	400,000	54,760	-345,240
正会員過年度分	0	490,000	490,000	本大会	700,000	557,309	-142,691
終身正会員当該年度	150,000	90,000	-60,000	英文誌編集発行費	2,200,000	2,200,000	0
院生会員当該年度	50,000	55,000	5,000	通信費	16,000	5,568	-10,432
院生会員過年度分	0	30,000	30,000	交通費	0	0	0
準会員	0	0	0	事務用品費	64,000	8,283	-55,717
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	16,000	0	-16,000
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	16,000	5,910	-10,090
その他(前受会費：預り金)	20,000	10,000	-10,000	会議費	0	0	0
大会収入	400,000	709,923	309,923	印刷費	0	0	0
オートム・コンファレンス	100,000	27,380	-72,620	事務委託費	350,000	150,700	-199,300
本大会	300,000	682,543	382,543	国際交流費	0	0	0
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	40,000	-110,000
寄付金	0	0	0	経済学会連合会費	35,000	35,000	0
書籍売却代	0	0	0	学会賞	100,000	50,000	-50,000
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	0	0
利用料	6,000	1,038	-4,962		0	0	0
印税収入	28,000	38,387	10,387	予備費	80,000	1,802	-78,198
印税収入	28,000	38,387	10,387	予備費	80,000	1,802	-78,198
当期収入合計	2,604,000	3,524,351	920,351	当期支出合計	4,127,000	3,109,332	-1,017,668
前期繰越金	5,505,227	5,505,227	0	繰越金	3,982,227	5,920,246	1,938,019
総計	8,109,227	9,029,578	920,351	総計	8,109,227	9,029,578	920,351

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2024年 9月 26日 黒瀬 琢

進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2024年 8月 5日 藤田 菜々子

進化経済学会監査委員

貸借対照表
(2024年3月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
I. 流動資産		II. 流動負債	
現金		前受会費	40,000
預金			
普通預金	185,606		
郵便振替	5,276,786		
未収金	497,854	III. 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,505,227
		当期差益	415,019
合計	5,960,246	合計	5,960,246

財産目録
(2024年3月31日現在)

(資産の部)			
(単位：円)			
科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金			
	会計担当理事	りそな銀行(天竺出張所)	185,606
	学会事務局	郵便振替口座	5,276,786
未収金	第28回大会残金		497,854
資産合計			5,960,246

(負債および正味財産の部)			
(単位：円)			
科目	通用	金額	
流動負債			40,000
前受会費		40,000	
負債合計			40,000
正味財産合計			
		前期繰越金	5,505,227
		当期収支差額	415,019
負債及び正味財産合計			5,960,246

北海道・東北部会報告

2024 年度夏季進化経済学会北海道・東北部会の活動報告について、下記のとおりとなります。

2024 年 9 月 17 日（火）14:00-17:30 に星槎道都大学（北海道北広島市）にて、2024 年度夏季進化経済学会北海道・東北部会を開催した。

【第 1 報告】西部忠(専修大学)「The Transdisciplinary Approach to Evolutionary Economics: An Integrated Science of Economics and Biology」

【第 2 報告】太田隆（文芸経済研究所）「Dixit=Stiglitz 型モデルの貿易・貨幣・経済統合理論の考察」

【第 3 報告】小林重人（札幌市立大学）「健康と移動に関するソーシャルシステムデザイン」

本年度は、2015 年度以来、じつに 9 年ぶりの夏季部会開催となり、報告者を含めて 11 名の参加者が集まった。西部会員からは、進化経済学をはじめた経緯や進化経済学における重要なコンセプトなどの報告があった。また、太田会員からは、ニューケインジアン立場から Dixit=Stiglitz 型モデルを踏まえた新たな経済モデルの提案について報告があった。小林重人会員からは、札幌市もみじ台団地で行われた AI オンデマンドタクシーの実証実験と高齢者の健康等に関する研究の成果について報告があった。今回も多様な領域から報告がなされ、活発な議論が行われた。引き続き、冬季部会においても、様々な報告を募集する予定である。

文責：宮崎義久（宮城大学）

オンラインライブプレゼンフェス 2024

12月1日、Gather.townでフルオンラインのポスターセッション+ミニ講義のイベント、オンラインLPF2024が開催されました。10:45に始まり懇親会がお開きとなる20:00にいたるまでのほぼ一日イベントでした。藤本隆宏先生、福澤光啓先生による2つのミニ講義では、この夏に有斐閣から出された『工場史：「ポスト冷戦期」の日本製造業』をもとに、現場から地域・世界経済まで、ものづくりの「現場史」を編むという作業がいかなるものであるか、熱く語っていただきました。一方のメインである今年のポスターセッションでは、多くの学部生の方に参加していただき、会員のみなさまと楽しく、ときに深く踏み込んだディスカッションで、大いに盛り上がりました。

12月のLPFはフルオンラインでしかも非会員報告OKというオープン設計で、参加のハードルも低く、時期的にも修論や卒論提出直前の



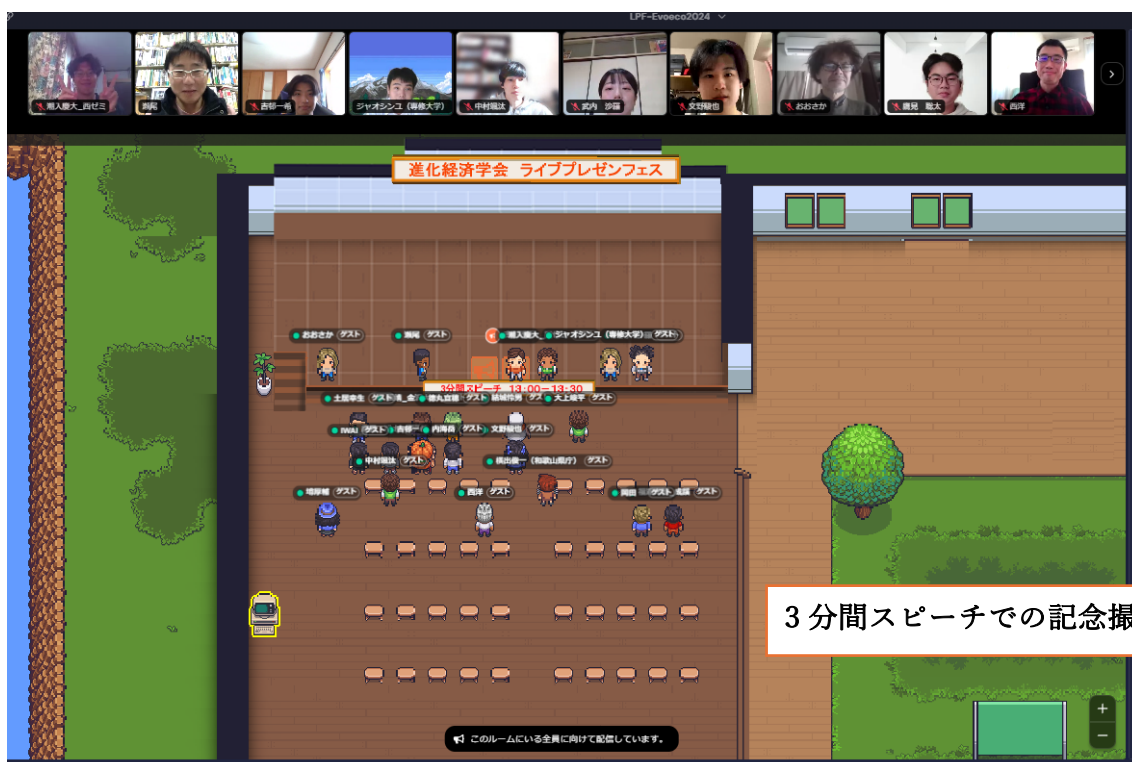
方には学外の専門家の意見が聴けるタイムリーで得がたい機会となっております。今後ともみなさまのご協力のもとにさらに充実していければと願っています。

最後になりますが、レクチャーの両先生、ポスター参加のみなさま、聴き

10:45-12:20	藤本先生ミニ講義 (昼食休憩)	← レクチャー ステージ
13:00-13:30	3分間スピーチ	←
13:30-15:00	ポスターセッション (第一部)	← 芝生広場
15:00-16:00	福澤先生ミニ講義	←
16:00-17:30	ポスターセッション (第二部)	←
17:30-20:00	懇親会	← 屋上ガーデン

手として参加して下さった会員のみなさまに、そして準備にあたって下さった活性化委員会のみなさまに心より御礼申し上げます。

ポスターセッション 報告リスト	
潮入慶大(阪南大)	ウェルビーイングに対するお酒の効果
中村颯汰、川下航輝、北垣内空、山本(阪南大)	ポイ捨てを減らすために
鷹見聡太、高畑、岡田、大上、土居、中川(阪南大)	仕掛けの原理と応用：環境への活用を中心に
岩井遼樹(鳥取大)	コンテンツツーツリズムによる移出力の創造：訴求性と波及効果に注目して
師富勇樹、文野俊也、吉邨一希(阪南大)	ナッジとはどのようなものなのか
趙新宇(専修大)	中国の二酸化炭素削減目標の実現に向けてー産業連関表を用いた地域間分析
樽厚輔、結城怜男、石本一紗、藤原草太、住吉尽(阪南大)	ポイ捨ての削減
大坂洋(富山大)	魂を半分しか売らずに進化経済学者がミクロ経済学を教える方法



文：学会事務局 吉田雅明

編集後記

みなさま、明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年末からインフルエンザや風邪が大流行していますが、年明け早々、久しぶりに体調を崩してしまいました。これから年度末で忙しくなるかと思いますが、みなさんも体調管理に気をつけてお過ごしください。3月の大会でお目にかかることを楽しみにしています。

ニューズレター編集担当 横田宏樹（静岡大学）